

中国・東北財経大学図書館の現状と 図書館の国際交流について

経済学部教授 劉 曉 梅

中国・東北財経大学図書館は1952年、大学の創立と同時に設置された。当初は、本が10万冊で、職員が10人しかいなかった。1984年に改築され、現在では全蔵書数は125万冊に及び、職員数は80人に至っている。総面積8400㎡の中に、書庫が8室、文献閲覧室10室、電子閲覧室2室、閲覧席が1200席ある。現在、東北財経大学図書館は、規模の拡大と機能の充実を目指して、図書貸出を中心とする伝統的なイメージの図書館から、現在社会のニーズに対応した図書館本来の機能であるレファレンス・サービス、レフェラル・サービスを提供できる施設への転換のための取り組みを進めている。

東北財経大学は中国東北地域において唯一の経済学、管理学を中心とした、教学兼研究型の総合大学である。図書館には、経済と行政・経営管理に関連する書類が豊富である。特に東北地方の経済展開・歴史、古い工業基地の再建及び北東アジア研究に関する資料が一番多い。また、この大学は建国当初の東北人民政府に設置された大学であるため、政府との連携が緊密で、政府の経済、管理に関する政策と法令など関連文献が揃っている。

学生と研究者の国際化は21世紀における大学の特

徴の一つになっており、大学間の国際交流は大学の重要な事業として、これからますます大きな役割を果たすことが期待される。1978～2006年末までの中国から海外への留学生数は100万人を超え、うち2000年以降の留学生数が総数の70%以上を占めた。留学先としては、日本が一番多い。2005年5月時点で日本に滞在する中国人留学生数は8万人に上り、2004年度に日本の大学などで研究活動を行う中国人研究者は6500人に及んだ。この留学生と学者の勉強と研究に必要な情報と資料を提供するために、大学間の交流は図書館の交流まで拡大する必要があるだろう。

私自身もかつて留学生であった頃、学位論文を書くために、何回も中国に帰って資料を収集したことがあり、そのために経済的な負担が重くなってしまった経験が今なお記憶に新しい。留学生のうち、自費留学生は90%を占める。彼らの留学生生活を応援するために、図書館の交流の工夫が不可欠であると考えられる。

東北財経大学図書館の館長は、大学図書館間の交流において、書籍、雑誌、データベースなどの資料、情報を共有する以外に、図書館の運営、機能の発揮なども含めて、広く交流を行いたいと言った。



東北財経大学図書館



館内の様子